

# そうじの力だより

VOL.212



## 支援事例紹介

イベント開催で、楽しみながら活動する

鳥根県益田市の自動車教習所、Mランド益田校。地元の名士である、故小河二郎氏が創設し、ユニークな経営で全国に名を知られています。

教習生(ゲスト)や教官(インストラクター)が、互いに送り合う「ありがとうカード」、校内での買い物などに使える地域通貨「Mマネー」、そして、ゲストが校内の掃除などを行う「朝のボランティア」など、いまや全国の教習所で行われている施策の多くは、ここMランドで生まれました。

前述したとおり、もともと同校においては、掃除の文化がありました。朝のボランティアとして、トイレ掃除や構内の掃き掃除などを、インストラクターとゲストと一緒にやります。

しかしながら、その掃除の文化は、実は一部の社員に限定されたものであり、全員参加の活動ではなかったのです。また、掃いたり拭いたり磨いたりといったいわゆる「清掃は得意なので、不要なものを捨てたり、分りやすく配置する」といった「整理・整頓」が苦手、苦手、という実情もありました。

そこで、



以前の教室の書類の山(ピフォア)

「そうじの力」から「クリーン&コミュニケーション活動」へ

うど一〇年前に弊社がお手伝いに入っ、て、あらためて「そうじの力」の活動がスタートしました。

全社員約二二〇人を一五の班に分け、それぞれの班にエリアをあてがって、各班的リーダー主導で活動を進めていくやり方を採用しました。

ある班は、学科教室の床面をピカピカに磨き、また別の班は、敷地を取り囲むガードレールを白く磨いてくれました。

こうした活動を一〇年間続けてきて、ある程度の成果はありましたが、いまひとつ、「突き抜けた」活動にまではなっていない。

ひとつには、シフト制勤務のため、皆さんが揃って活動する時間が取りにくい、ということ。

もうひとつは、従来からの「掃く拭く磨く」に固執してしまい、「不要物を捨てる」ということが、なかなかできないこと。

そこで、今回、少しやり方を変えてみよう、ということになりました。

まず、十一月二二日の



皆で協力して書類を「捨てる」作業

午後、ほぼ全員にあたる百名以上が参加し、「整理」イベントを開催しました。今回は、掃いたり拭いたり磨いたり、といったことは一切せず、ひたすら「捨てる」ことに注力しました。

おかげで、デスク上にうず高く積もった書類や、キャビネに十年以上も使われずに押し込まれたままの書籍などが、こそと捨てられました。

また、これまで、校内で催された夏祭りなどで使用された大道具や小道具、イスやテーブルなどが、



過去のイベントで溜まった道具を捨てる

あちらこちらにホコリを被って放置されていたのですが、それらもいったん全部出して、使っていないものはこそと捨てることができました。

当日は、皆さんが、楽しみながら、積極的に体を動かして



トラック1台分も出た、捨てる書類

た。もと、イベント事は得意です。イベントになると、互いに協力して、総合力が発揮できます。



スッキリとした現在の教室(アフター)

そして、これを機に、普段の活動のネーミングも、これまでの「そうじの力」から、「クリーン&コミュニケーション(C&C)活動」というふうに変えることになりました。

そこには、単にキレイにするだけではなく、活動を通じてコミュニケーションを促進し、よりよい組織を築いていく、という想いが込められています。

同校のビジョンは、「日本一美しく、温かく、わかりやすいMランド」。その達成に向けて、全社でいくつかのテーマを決めて、各班で活動計画を作成し、実践していきます。

具体的には、月一回の班活動、年二回の全社活動、年四回のリーダーミーティングに加え、毎週木曜日の朝は、身の回りの整理や洗車、教習コースの草抜きなどを行います。

ユニークな企業Mランドが、新たな「C&C活動」によって、さらにユニークに進化していくでしょう。(小早)

オンラインでの研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



ツイッターで、「環境整備 一日一言」を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！



# そうじの力コラム

“そうじ”をすると、なぜ会社がよくなるのか⑩  
 ～「にっこにこ」サイクルを回す～

私の著書第一作のタイトルでもある「そうじ」をすると、なぜ会社がよくなるのかについて、さらに考えてみます。

前回のコラムでは、「転原自在(てんげんじざい)」という概念をご紹介しました。

道端に落ちているゴミは、自分がポイ捨てしたわけではありません。しかし、自分が気づいて拾うことで、そこにゴミが放置されているという問題を、解決することができます。

このように、責任の所在にかかわらず、自分が動くことで周りの状況を動かすことを、「転原自在」と言います。平たく言えば、「何とかするのは自分だ」ということです。

こうした、転原自在の行動を、組織内の

多くの人がするようになると、次にどのようなことが起こってくるか。

たとえば、足下のゴミを拾うというのは、小さなことですが、「役に立つ」ことです。すると、周りの人に「喜ばれる」ので、周りから自分が「大事にされる」、そして自分が「助かる」ので、「喜ぶ」。

だからまた、周りを「大事にする」ので、周りの「役に立つ」行動をする、という好循環が回ってきます。

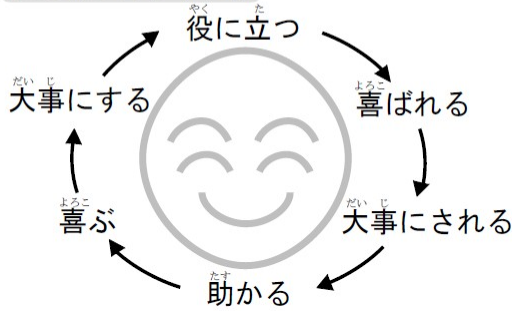
これを、「にっこにこ」サイクル(大和信春氏考案)と言います。

そうじに取り組み多くの企業で、単に場がキレイに整うだけでなく、社風がよくなっているのは、この「にっこにこ」サイクルが回っているからなのです。(小早)

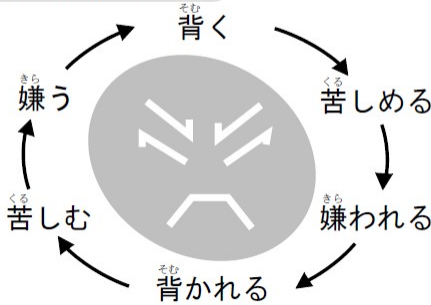
## 二つのサイクル

YR1-5590  
 ©1990.1/2  
 2001.8/16版  
 N. W. Yamato

### にっこにこサイクル



### ぶんぶんサイクル



## 編集後記

愛情表現は難しい・・・

わが家の愛犬カイ君(柴犬、オス、5歳)は、気難し屋さん。噛み癖があり、仔犬の頃から何度も噛まれています。

先日、喉のあたりを撫でていたら、突然ガブリとやられて、左手が大流血！

こちらとしては、愛情表現のつもりで撫でていたのですが、どうもカイ君にとっては、それは気に障る行為だったようです。

まあ、人間同士でも、よかれと思ってしたことが、逆効果だったということは、ままありますが・・・(T\_T) (小早)



## 飛鳥のつばやき

里山チャレンジ

子どもたちと、近所の里山で自然体験。

もぐらの穴がどれだけ長いかを調べるのに、長い笹の枝を穴に内視鏡のごとくどんどん差し込んでいったり。

カブトムシが卵を産める場所を作るために間伐された枝を集めたり、カマキリの卵を触ったり。

男子母、虫苦手を克服できるよう、息子'sよりも真剣に取り組んでおります。(大槻)



## 株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、  
 日本で唯一の研修会社

弊社は“そうじ＝環境整備”を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)